

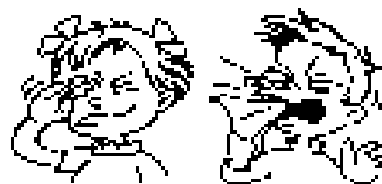


## アレルギー性鼻炎・花粉症



### <アレルギー性鼻炎・花粉症とは?>

「アレルギー性鼻炎」とは、鼻粘膜における I 型アレルギー疾患であり、発作性反復性のくしゃみ、水様鼻汁(鼻みず)、鼻閉(鼻づまり)を3主徴とします。このうち、花粉を抗原とする場合を特に「花粉症」と呼びます。眼のかゆみ、充血、涙目などの「アレルギー性結膜炎」を併発することもあります。また、頭がボーとしたり、不眠などの症状を呈することもあります。



### <有病率は?>

日本における全国的規模の調査では、有病率は、通年性アレルギー性鼻炎が 18.7%, スギ花粉症が 16.2%, スギ以外の花粉症が 10.9%でした。

患者年齢は、通年性アレルギー性鼻炎は 10 歳代, スギ花粉症は 30-40 歳代にピークがあります。

以前は、通年性アレルギー性鼻炎の主たる原因であるダニ抗原の感作後に、スギ花粉に感作される症例が典型的でしたが、スギ花粉に感作された後にダニに感作される例や、スギ花粉にのみ陽性の症例も増えつつあります。

スギ花粉症は、発症の低年齢化と高年齢化が同時に見られ、広い年齢層でみられる疾患になって来ています。

通年性アレルギー性鼻炎は男児が、スギ花粉症では女性の有病率が高くなっています。



### <最近の傾向は?>

近年のアレルギー性鼻炎・花粉症の増加傾向は、1960 年代から始まった細菌感染による慢性副鼻腔炎の減少傾向と、反比例しています

花粉の飛散数にかかわらず、一般的に都市部が農村部よりもアレルギー性鼻炎・花粉症の有病率が高い傾向を示しています。



### <原因抗原は?>

通年性アレルギー性鼻炎の原因抗原としてはダニ、ハウスダストが最多で、イヌやネコなどのペット、ゴキブリなどが挙げられます。

主な花粉の飛散時期は、樹木(スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバなど)は 1-5 月(ピークは 3 月)、イネ科植物(ハルガヤ、カモガヤ、オオアワガエリ、ギョウギシバなど)は 4-11 月(同 5-6 月と 10 月の 2 峰性)、雑草(ブタクサ、ヨモギ、アキノキリンソウなど)は 8-10 月(同 9 月)です。